

休符は音符とセット化して、伴奏パターンとしてマスターするのが効率良いトレーニング方法でしょう。大事なのは“ノリ”であり、音楽が流れて前へ進んでいくことを体感してください。休符は「休む」のではなく、「音のないところにも存在を感じること」と捉えてみましょう。

check!



check!

33
365



表情のある 休符を感じる

Track 033

♩ = 60

シンコペーションにノットでスタッカートも軽快に弾きましょう。ラテンの雰囲気を感じながら表情をつけられるように弾いてください。



check!

34
365



4分の5拍子で 休符を感じる

Track 034

♩ = 60

5拍子は、「3拍+2拍の組み合わせ」ということを意識して、「1、2、3」「1、2」とカウントするクセをつけましょう。慣れてくると、変拍子も苦ではなく楽しく感じられるようになります。



check!

35
365



ベースらしさを持った 休符トレーニング

Track 035

♩ = 100

休符に気を取られ過ぎて、音楽表現を失わないようにするトレーニングです。ベース・ラインを特に歌わせるように弾きましょう。もちろん、右手の伴奏もしっかりと意識して美しいハーモニーを響かせてください。



休符について考える

休符を「休む」という意識で扱うと、音楽が止まってしまいます。曲が終わっていない限り、休符の間は音こそないものの、大事な音楽の一部なのです。ジャズでは、休符が増えれば増えるほど、その次に出てくる音への緊張感が増します。休符は、「ため」というニュアンスになり、バッキングなどで細かい休符があるときは、空気感を表すようなニュアンスを作り出すのです。良いタイミングで休符が入れば、曲の世界感に人をいざなうような効果もあり、音楽を実際に豊かにしてくれます。また休符にはスピード感もあり、ふんわりとし

た休符なのか、鋭い休符なのか、ジャンルによってもさまざまな表現のパターンがあるでしょう。音がないからこそ難しい!! 必ず曲の中に存在していて、音符とセットになった、ワビさびの世界です。